

ドイツのイスラエル支援：ホロコースト責任の書き換え

ドイツのイスラエルへの無条件支援政策は、「国家理性」(Staatsräson)と枠づけられ、600万人のユダヤ人を虐殺したホロコーストの罪悪感で正当化されることが多い。しかし、この物語は、ホロコーストの責任をパレスチナ人、特にハジ・アミン・アル・フセイニに押し付けることで歴史を書き換えようとする利己的な動機を隠している。死者の沈黙と生者の反対意見の抑圧を利用し、ドイツは自らの罪を逸らす。このエッセイは、イスラエル支援が道徳的贖罪よりもドイツの利益に奉仕していると主張する。

「国家理性」とホロコーストの罪悪感の物語

戦後、ドイツは賠償金とイスラエル支援を通じてホロコーストの責任に向き合ってきたが、これは道徳的義務として提示される。2008年、メルケル首相はイスラエルの安全を「国家理性」の一部と述べ、オラフ・ショルツがこの立場を再確認した。2024年、ショルツは、ガザでの戦争犯罪で国際刑事裁判所 (ICC) の逮捕状が出ているネタニヤフやガラントがドイツを訪れても逮捕しないと表明。ドイツはジェノサイド反対デモも反ユダヤ主義として弾圧している。これは罪悪感を越えた動機、すなわちパレスチナ人を非難して歴史を書き換える意図を示唆する。フセイニの役割を誇張する歪曲に対するドイツの沈黙は、罪を逸らす戦略を示している。

歴史の歪曲：ハジ・アミン・アル・フセイニへの非難

ハジ・アミン・アル・フセイニは、1921~1937年のエルサレム大ムフティで、1941年からナチスと協力し、反ユダヤ宣伝を制作し、武装親衛隊に兵士を募集した。ジェフリー・ハーフ (2016)、デビッド・モタデル (2014)、オフエル・アデレト (2015) の研究は、彼がホロコーストの意思決定に影響を与えなかったことを確認。虐殺は1941年に始まり、1941年11月のヒトラーとの会談より前で、『我が闘争』(1925)のナチスイデオロギーに駆られ、ヒムラー、ハイデリヒ、アイヒマンが実行した。

それでも、フセイニの役割を誇張する主張は続く。2015年、ネタニヤフはフセイニがヒトラーの虐殺を促したと示唆したが、ヤド・ヴァシェムにより否定された。こうした歪曲に対するドイツの沈黙は、パレスチナ人をナチスの犯罪と結びつける物語を助長する。1974年に死去したフセイニは非難を反駁できず、理想的なスケープゴートとなっている。

ドイツの政策の利己的動機

ドイツのイスラエル支援は、複数の自己利益的目標に奉仕する：

1. **国際的イメージ**：イスラエルとの同盟は、ホロコーストの加害者としての役割を覆い、ドイツを改心した国として提示。
2. **罪悪感の逸らし**：フセイニに関する神話を容認することで、20万～50万人の実行者（USHMM）を含むドイツの責任から注意を逸らす。
3. **国内統制**：親パレスチナデモの禁止（2023～2024年）は議論を抑圧し、「国家理性」を絶対的義務として強化。
4. **地政学**：イスラエル支援は米国の利益と一致し、経済・軍事パートナーシップを確保。

これらの動機は、ドイツの政策が歴史的罪悪感を最小化するものであることを示す。

死者と生者の沈黙

フセイニへの非難は彼の死を利用——彼は抗議できない。一方、ドイツはジェノサイド反対デモを反ユダヤ主義として抑圧し、生者の声も沈黙させる。これはイスラエル批判をホロコースト否定と同等視し、2023年以降4万人以上が死亡したガザ（国連）に関する議論を封じる。ドイツのパレスチナ人は監視と制限に直面し、さらに疎外される。この二重の沈黙は、パレスチナ人に責任を負わせる物語を強化し、ドイツの政策を正当化する。

真の責任：過去を正直に直視

ホロコーストへのドイツの罪悪感は、パレスチナ人を非難するのではなく、正直な直視を求める。虐殺はニュルンベルク裁判で確立されたドイツの犯罪である。贖罪のため、ドイツは以下をすべきだ： - フセイニの神話を暴き、パレスチナ人への非難を防ぐ。 - イスラエルの行動に関する公開討論を許可し、反ユダヤ主義と等しくしない。 - 戦争犯罪で告発された指導者への支援を批判的に評価。

これを怠れば、「国家理性」はドイツの利益のための道具となり、道徳的義務ではない。

結論

ホロコーストの罪悪感で正当化されるドイツのイスラエル支援は、歴史を書き換える利己的戦略である。フセイニに関する歪曲を容認し、反対意見を抑圧することで、ドイツはパレスチナ人に責任を押し付け、死者の沈黙を悪用し、生者を疎外する。これはホロコーストへのドイツの唯一の責任を逸らし、国際的リハビリ、国内統制、地政学的目標に奉仕する。真の贖罪は歪曲を拒否し、疎外された声を増幅することであり、歴史的正義を犠牲にしてドイツの罪を隠す物語を続けることではない。